

第5回 海外医療支援活動 報告書 (2015)

◆キリバス共和国医療支援活動

平成27年9月15日～25日までの11日間医療支援活動を行いました。今回の医療支援活動はキリバス本島より北へ350kmの北タビテウェア（離島）で行い、この島での活動は2度目となります。今までキリバスは眼科医が不在でしたが、1人の眼科医が誕生し、今回の我々の支援活動に同行しました。同行した医師に手術指導を行いながら、外来診療・手術分野で順調に活動を行っていましたが、活動4日目からの悪天候でフィジーとキリバス間の定期便のジェット機、また離島と本島を結ぶセスナ機が飛べない状況となり、何より島全体が2日間停電するという、これまでの活動で最も過酷な状況に陥りました。支援活動においては手術が出来なくなり、患者さんも海を渡って診察を受けに来るので足止めの状態で、我々も帰国出来るのか不安な日々を過ごしました。

◆結果／現地、治療の様子



◇結果／治療実績	
外来患者数	200名
手術	白内障 30件
眼鏡処方	105名

◆皆さまのお気持ちが直接「支援」となっています

キリバスでの医療支援では、茨城中学・高等学校、宮城県眼科医会をはじめとする皆様からの善意で集められた眼鏡を処方、寄付させていただきました。

◆これからの「医療支援」

来院時、一人で歩けず支えとなる人が必要だった患者さんが、手術後には光を感じ、ご自身の足で歩ける様になるなど、医療支援を始めてから毎回見る光景ながら感慨深く、感極まるものがあります。今回の活動ではキリバス人の眼科医の誕生によって、キリバスの眼科医療に光が射しました。これまで10年間医療支援に努めておりましたが、今後の支援において改めて考える時期にきているのかもしれない。

以上